

政府と自由黨との 關係

自由黨も種々なる非難を忍耐したる報酬として其首領なりしに政府部内にては板垣伯の入閣に反対する者あるがため容易に行はれず自由黨と政府との結託も殆んと破れんとするが已に破れたりとか風説取々なるは我輩の聊か怪訝に堪へざる所なり固より政府と自由黨とが如何なる關係に成り行くとも我輩の聊か頗る羨せざる所にして政府若し其適當に苦しまば是れ自業自得にして傍より彼れ是れ心配すべき限りに非ずと雖も政治上の形勢を進歩せしめて國民の政見を改善せんがためには聊か論ずる所なきを得ず抑も政黨内閣たると超然内閣たるとに論なく議院制度を實行する國に於て内閣が圓滑に其經營を實行せんには政黨の助力を要する能と必然の勢なれば政黨の首領を内閣に立たしめて其政見の趣部分を容るは已むを得ざる次第にして我輩如き政黨の事に冷感なる者と雖も亦此事實を否定する能はざるなり此事已に必然の勢なるか伊藤内閣が近日其経緯を應用するが爲めに自由黨の力を借りたるも又自由黨に附するに内閣の一席を以てするも當然の事にして自由黨の効力を借りるに付きて最初より同意したる閣員が今更其報酬の一殷となりて不同意などとは驚き入づたる大失なり凡そ他人の努力を使役して報酬を與ふるは人間通の道理にして此道理を無みするもの之を輕薄と言ふ政府にても最初より自由黨を無報酬にて使役する者の者は非ざる可し或は自由黨の運動費として政府より多少の資金を投じたりと云ふを口實として之に知らぬ顔も出来ざる可し右は單に報酬の議論なれども是れは我輩の重きを擴く所に非ず唯我輩は之を奸機會として政治上朝野の關係を道德問題より一變して政治問題たらしめんみると欲するものなり從來我國人の習慣として民間の者が政府に親しむるをもあれば直に其節操を棄して金銭上の關係に説き到らすんば已まざるの風なりと雖も我輩の甚だ感服せざる所なり政府を助くると民間黨を助くると其間に如何の區別ありや民黨を助くるは道徳にして政府を助くるは不道德なりと國家の利害喪失は常に譲却せられて政治上の議論は常に正邪忠奸の極端に譲らざるを得ず成行の明白なる所なり教育は必ずしも常に惡ならずを助かるべく却て政局上の結果にして國民の幸福あるのみで中間層は其内部に立入りて秘密を知らんこゝに白字として定めたる國自由黨と政黨の

から田事柄も少なからざる可く又世上にて稱道する金
錢授受の事ありとするも他を奔走せしむるに運動費を
給するは世間普通の事にして聊かも怪しむに足らざれ
ば斯る議論は一切止めにして政治上の得失利害を標準
として論ずる風に改むべきものなり若し萬一在朝黨を
助くるは一切不道徳、不節操にして士君子たるものと
爲すべき所に非ずせんか斯く云ふ所の在野黨も他日
その首領の入閣したる政府を助けざる可らざる時節到
來せんには如何なる辭を以て辯解す可きや甚だ心元な
き次第なり故に我輩は政府が斷然その偏廻心を打して
シ板垣伯を入閣せしめ政府と政黨との關係をして道徳
問題より政治問題に轉せしむる機成を助けんるとを勧
告するものなり若しも政府自由黨の關係を今日の如く
に曖昧不言の間に付し去らんか自由黨は非常の窮境に
陥りて天下に申譯なきと同時に政府は恰も他を弄び
たる姿となりて朝野離合の問題はますゝ政治問題を
離れ寄烈なる道徳論に越るの成行ある可し我輩の聊か
一書する所以なり

馴，即
第十二回 合婚說

馴川合婿說
第二十回
甘言吾を欺きと、悪く取れば取る様なもの、一つには我娘の監禁を既し度く、二つには我爲めよかれど、金田屋の娘を吾に手引きせんといふ、素より花園看の堅い人間がする事ならぬぞ、今の東京の風に吹かれと、京橋邊に住居するものが、堅氣の者なりとて、此位の事は當然なり。

必然の勢なれば政黨の首領を内閣に立たしめて其政見の趣意を容るゝは已ひを得る次第にして我輩如き政黨の事に冷淡なる者と雖も亦此事實を否定する能はざるなり此事已に必然の勢なもか伊藤内閣が近日其経緯を應用するが爲めに自由黨の力を借りたるも又自由黨は固ゆるに内閣の一席を以てするも當然の事にして自由黨の助力を借りたるに至て最初より同意したる閣員が今更ら其報酬の一役となりて不同意などとは驚き入つたる次第なり凡そ他人の努力を使役して報酬を與ふるは人間普通の道理にして此道理を無みするもの之を報酬と云ふ政府にても最初より自由黨を無報酬にて使役するの者には非ざる可し或は自由黨の運動費として政府より多少の資金を投じたりと云ふを口實として之にて已に十分なりと云ふものあらんかなれども斯れは必ず即ち其首領をして内閣に立たしむる一事にして自由黨の助力を可としたる閣員は今日に至て正さかに知らぬ顔も出来ざる可し右は單に報酬の議論なれども是れは我輩の重きを措く所に非ず唯我輩は之を好機會として政治上朝野の關係を道德問題より一變して政治問題たらしめんみどを欲するものなり從來我國人の習慣として民間の者が政府に親しみみどもあれば直に其節操を棄して全錢上の關係に説き到らずんば已まさるの風なりと雖も我輩の甚だ感服せざる所なり政府を助くると民間風を助くると其間に如何の區別ありや民黨を助くるは道徳にして政府を助くるは不道徳なりとは如何にも人間の常識に合はぬ眞論にして若しも斯る感情一偏と標準として政治上の事を判断したるには國家の利害得失は常に顧みせられて政治上の議論は常に正邪忠奸の極端に趨らざるを得ず成行の明白なる所なり教育は必ずしも常に惡ならず之を助んやうと却て政黨上の議論にして国民の幸福なるみどりの議論上は不思議としが全く暴風の爲めに眞の危機を生じたる事も多し在郷在職の者には其内部に立入りて秘密を知らんことを白字も正しからぬ事なると想ふ

○ 流氷と汽船 行衛不明なりし玄武丸は去る午後五時半、無事函館に向ひしと同船が去る三十一日出帆花咲港に向ひし當時の模様を聞くに露布沖合の如きに由来の如きの氷塊流れ來りて危險と尙も二回まで同處へ航行を試みたれども遂に果敢は少して漸く猛烈に避難し居りしも前進のほど到來りし幾艘丸と衝突よりの玄武丸が入港したるの留み無きに付料は欠乏し來りたれば速に開港に逃れり然るに花咲港へは去月七日伏木より人夫を運運動費に給したものにして報酬に非ず自由黨に於ては別に大に期する所なきを得ず其期する所とは別儀に非ず即ち其首領をして内閣に立たしむるの一事にして同處の富豪柳田藤吉氏は見るに忍びず所有米を最も多く定めて賣り渡さしめしも此すら追々喰ひ盡せしかり是に於てか花咲の入荷を待ちし背面の根室にては日々の飯米に窮し已むを得ず市中米を一人宛てて立ち至らんと報じ来る其一方に玄武丸には白米四千石、雜貨九千石を満載し居り尙ほ花咲行の船荷は満て山の如く伊勢玄武兩船にて三四回も運ばずば始末付まじと云ふ併し去る五日午後の報知にては遠く色丹にて山の如く伊勢玄武兩船にて三四回も運ばずば始末付と云へば六日の頃には已に廻航せしならんかと云ふ

○ 武藏艦と密獣船取締 中なりし武藏艦は去る六日を以て北海道に向け出發せしむるに武藏艦にして薪木の積肥と補ひ若しくは木材を盜伐するの目的にて開港場外なる山田、石巻等の海港に無期にて碇泊するわらば見次第之を取押へ尙ほ進んで腹膜病の治療の治療期間は押揚附近より千鷗群島へ掛け總丈

先づ本横須賀にて内國電線の修理を終りしは京都大阪方面の工事にて一時は不

此種より兩三度通ひて話さへしたる事とて、時候の廢
より居の許判なしに移り行きて、路子の最負する併
體先廻りして騒ぐ程に、もう歸りがけには藏談の
一つもいふて、騒ぐ程の所どはなりぬ、人は男地獄の
手管を悪くいへば、夫は眞似する事も出来ぬ男の肩が、
負惜みの蔭苦なり。

始めは此位に切上げて、又の日からは餘々と一步を進
め、段々人喰鬼が深入りをせんものと考ながら、暇を告
げて立上らんとする時、流石は物訓れたる母親の事と
「今日は上度士曜日で御天氣も大丈夫ですから、久
も振上で上野から淺草へでも行て見やふと思ひます
が、先生貴君御同伴下さいませんか、お路さんも行
きませうね。

といふは、殊て約束通り、吾に料利を利かして、様の
取扱といふ、人聞きのいゝ様な悪い様な書ひを果さん
とはすなれ。

牒に合しなる手書は此處なりと、吾は工合よき合懇を
打ちて窓に塵子の顔を見れば、あれも飛立つ計りに嬉
し相なり、されば貴君しさは一處に行く事はあらず、
上野から淺草の遊山にあるらし。

側方に嬉しそがゆく上げてあると、一度一所に立田
でたる上からは、乾度音と一處に行く事を樂みにさし
て見せん、況して煙草を喫と聞はならうとやど、
吾に煙草はなけれども、自燃成ニヨキ～と下より持
上りぬ。